

# かんぽの宿など 47宿泊施設赤字

検査院調べ

日本郵政が郵政公社から引き継いだ「かんぽの宿」などの宿泊施設について、会計検査院が経営状況を調べたところ、2012〜14年度の平均で66施設中、47

施設で営業損失が赤字だったことがわかった。引き継いだ07年度の時点では54施設が赤字で、多くが赤字体質のままだった。検査院は改善が見込まれなければ、

譲渡も含めて検討するよう求めている。今回の検査は、昨年11月に日本郵政とゆうちょ銀行、かんぽ生命が株式上場したことを受けて行われた。07年度に赤字だった54施設のうち、9施設が黒字に転じたが、45施設は赤字のままだった。また、黒字だった2施設が赤字になった。

宿泊事業としては、引き続き以後の08年度以降、毎年度営業損失を計上し、14年度は約29億円にのぼった。一部の施設が営業を終えたこともあり、利用者も約209万人(07年度)から約169万人(14年度)に減った。

検査院は背景として「08年のリーマン・ショックによる景気低迷」「主要顧客の高齢化」などを挙げた。今後については「顧客二

ズに対応したサービス提供などの取り組みを進め、改善が見込みにくい施設は譲渡も含めて見直しを検討してほしい」としている。(田内康介)

## 家族性アルツハイマー

### 4病院が長期追跡

4代ごろにアルツハイマー病を発症するリスクがある人を長期間にわたって調べる臨床研究を、大阪市立

し、治療法の開発などにつなげるねらい。アルツハイマー病の患者は、脳内に「アミロイドβ」という発症に関わるたんぱく質がたまっている特徴がある。4代前後で発症する遺伝性の「家族性アルツハイマー病」は国内に約3千人の患者がいるとされる。

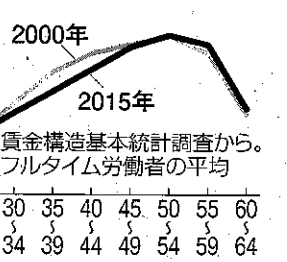
## 教えて!

### 「働き方」改革③

#### 賃金体系 年功型から成果主義になるの?

「仕事が多くないのに、賃金は我々の世代より高い」。東京の不動産会社の男性(37)は、年長の社員への不満を募らせる。競争激化で仕事が増えるなか、不公平感が強いという。

「年功型賃金」は、かつては普通だったが、低成長下で賃金の底上げが難しいなか、人数が減って非正規社員も多い若手の不満がたまりやすくなっている。



「子育て世代の処遇を改善するためにも、年功序列の賃金を見直し、労働生産性に見合った体系に移行することが大切だ」。14年9月の政労使会議で、安倍晋三首相は見直されるべき「働き方」と指摘した。

年金の変動が激しい▽公正な評価が難しい▽長期的な価値やチームワークより目先の利益や自分が優先になるなどの指摘もある。また、中高年は、教育や介護などの費用が増える年代で、その時期の収入を年功型が保障してきた側面もある。

労働政策研究・研修機構が11年に4千人に行った調査では、74.5%が年功型を「良いこと」と答え、99年の60.8%より増えた。

大和総研の溝端幹雄・主任研究員は「生産性に依じた賃金になると、教育費などがかさむ世代に相応の賃金を払うという、年功型が

「働き方」と指摘した。年功型賃金は、生活への安心感から仕事に打ち込めるため、「ものづくり」など日本の競争力の源泉ともされた。しかし1990年

代以降、企業が経営のスリム化と人件費の見直しを進めるなか、時代遅れとの声が強まった。年齢に応じた賃金の上昇幅を小さくしたり、仕事内容や結果に応じた賃金が変わる「役割給

賃金は「年功型」の傾向が続いている。

賃金が短期的に変わりにくく、長期的に仕事に打ち込める  
長く働く経験が評価されて賃金が上がりやすい  
生活費が増える時期に賃金が増え、生活設計しやすい  
仕事の成果にかかわらず、賃金に差がつきにくい  
若い頃は中高年への不満がたまりやすい  
中途入社など働いた期間が短いと不利になることがある

「良いこと」と答え、99年の60.8%より増えた。

大和総研の溝端幹雄・主任研究員は「生産性に依じた賃金になると、教育費などがかさむ世代に相応の賃金を払うという、年功型が

研究の代表を務める大阪市立大の森啓特任教授は「日本人を対象にした研究で、発症の詳しい仕組みが分かれば、発症の予防や治療法開発に役立てることができると話している。

「働き方」と指摘した。年功型賃金は、生活への安心感から仕事に打ち込めるため、「ものづくり」など日本の競争力の源泉ともされた。しかし1990年

代以降、企業が経営のスリム化と人件費の見直しを進めるなか、時代遅れとの声が強まった。年齢に応じた賃金の上昇幅を小さくしたり、仕事内容や結果に応じた賃金が変わる「役割給

賃金は「年功型」の傾向が続いている。

賃金が短期的に変わりにくく、長期的に仕事に打ち込める  
長く働く経験が評価されて賃金が上がりやすい  
生活費が増える時期に賃金が増え、生活設計しやすい  
仕事の成果にかかわらず、賃金に差がつきにくい  
若い頃は中高年への不満がたまりやすい  
中途入社など働いた期間が短いと不利になることがある

「良いこと」と答え、99年の60.8%より増えた。

大和総研の溝端幹雄・主任研究員は「生産性に依じた賃金になると、教育費などがかさむ世代に相応の賃金を払うという、年功型が

研究の代表を務める大阪市立大の森啓特任教授は「日本人を対象にした研究で、発症の詳しい仕組みが分かれば、発症の予防や治療法開発に役立てることができると話している。